



第 2 9 号
 発行
 小松同窓会本部
 〒923-8646
 小松市丸内町二ノ丸15
 石川県立小松高等学校内
 同窓会報編集委員会
 TEL・FAX (0761)21-6330
 印刷 マルト印刷工業株式会社

校況
学近

学区制が廃止されます。

学校総務課 酒井 隆志

新年明けましておめでとう
 ございます。
 今年も学校へのご支援ご協
 力をよろしくお願い申し上げ
 ます。

本校生徒も学年締めくくり
 の3学期を迎え、毎日元気に
 学校生活を過ごしています。
 特に3年生は大学受験本番
 を間近にし、緊迫感に満ちた
 日々を送っています。(今号が
 皆様のお手元に届く頃には大
 学入試センター試験も終了し、
 国立二次試験の出願、私立
 入試が始まっています。)

さて、3年生にはやがて卒業
 の時期が訪れるわけですが、
 同じ頃、新入生を迎え入れる
 高校入試が行われます。今年
 の高校入試はかつてない大き
 な変革を迎えることになりま
 した。周知のようにこの春の入
 試から従来3学区に分かれて
 いた学区制が廃止されて、中
 学生は県内どの公立高校を
 受験してもいいことになったの
 です。これは中学生にとっては
 受験選択幅の拡大、高校側に
 とっては学校活性化の一大チ
 ャンスとなる大きな変革といっ
 ていいかと思えます。
 こうした時代の変化に対応

し、本校は平成十五年度から
 「いしかわスーパーハイスク
 ール」として、特に数学・理科・
 英語の各教科について、少人
 数制授業や習熟度別授業、
 最新のビジュアル教材や実験
 器具を用いた興味あふれる
 授業作り、大学や専門研究
 機関との連携を通じた発展
 的なゼミナー学習など、数々
 の取り組みを行っています。

また、昨年八月には中学3年
 生を対象にした体験入学を
 実施し、金沢地区からの参加
 者も含む740名の参加があ
 りました。十一月には中学生
 だけでなく保護者・一般の方々
 をも対象にしたオープンスク
 ールを開催し、好評を博しま
 した。

学校の重点目標としては、

- ①確かな学力の育成
 - ②豊かな人間性の育成
 - ③満足いく進路実現
- を掲げ、教員の指導力向上に
 努めています。そのための方策
 として外部への公開研究授業
 を積極的にを行い、開かれた学
 校、地域社会、保護者・同窓
 会に愛される学校作りをめざ
 していきます。

近年、高校生に対するキャリ
 ア教育の重要性が高まってき
 ています。単なる机上の学力、
 技術や技能を獲得するだけで
 なく、健全な職業観、社会に
 貢献するために必要な倫理観
 を養うことが重要な教育課
 題の一つとなっています。

本校でも以前より創立記念
 講演会や特別教育講座(2年
 生を対象に大学の先生をお
 招きして、様々な専門分野に
 ついての講義を受ける)などを
 実施して、生徒の多様な学力
 を伸ばすための努力をしてき
 ました。また、数年前からは1
 年生の学年行事として、同窓
 生・PTAに協力をいただき
 社会人講師によるパネルディ
 スカッションを行ってきました。

これらの諸行事はどれも生
 徒にはかなりの刺激となり、
 早い段階から自分の生き方や
 進路について深く考える生徒
 が増えてきたように思われま
 す。しかしながら、毎年毎年の
 講師やパネラー選定にあたり、
 業種・年齢・男女比などをバ
 ランスよく考慮することは、
 なかなか骨の折れる仕事です。

そこで、来年度より表記の「小
 松高校アドバイザーバンク」

小松高校アドバイザーバンクの設立

を設立し、生徒に有益なアド
 バイスをいただける人材リス
 トを作成していきたいと考え
 ております。小松高校はこれ
 まで国の内外・中央地方を問
 わず、多くの優秀な人材を輩
 出してきました。その中には、
 学校サイドだけでは把握しき
 れない、素晴らしい先輩諸氏
 が多数活躍なさっていること
 と思えます。このような方々に
 自分の能力を社会に役立てる
 ことの大切さや喜びを生の声
 として、生徒に発信してい
 ただければと思っております。

以上の趣旨をご理解いただ
 き、同窓会本部もしくは学校
 総務課まで

電話076-1122-1325、
 FAX076-1122-1325
 「こんな人がいますよ」とご
 一報いただければ幸いです。
 どうかよろしくお願いいたし
 ます。
 (高校32回)





松高カミングデイに

参加して

和田 泰博

青春を謳歌した我が母校で特別授業を聴講し、懐かしの天守台で仲間と共に母校愛を肴に創立記念日をお祝いしませんか。との第四回ホームスクールカミングデイの案内をいただきました。今回は今年還暦を迎える私達十五回生と總會等の担当をされる三十一回生、そして、初者を迎える三十五回生を中心に関催されるとのことでした。

十五回生は、昨年片山津で卒業四十周年記念同窓会を行っており、今回は、母校へ帰るよい機会を与えていただいたことを大変うれしく思いました。

平成十六年九月二十六日午前九時会場である小松高等学校記念館に参加者が三々五々集まってきました。記念館は久しぶりに会う仲間の話声でいっぱいになりました。特別授業の行われる階段教室は、理科棟の一部として本館の東側に建てられていたもので、創立百周年記念事業の一環として、記念館（明治三十二年開校の校舎）の中に復元されたものです。私達にとっては苦楽を共にした大変懐かしい校舎・教室です。

振鈴の合図でいよいよ特別授業の開始です。最初に、吉田同窓会長が挨拶と講師の紹介をされました。第一限目は、矢原珠美子先生の「英語をとおして見る日本」で、先生は、昭和四十一年から二十八年間を英語科教諭として、平成六年からの二年間を教頭として小松高等学校に勤務されました。今回案内をいただいた高校十五回生は、昭和三十五年四月入学、昭和三十八年三月卒業ですから矢原先生の英語の授業を小松高校で受けるのは初めてということになります。最初に、芭蕉の「枯れ枝にからず止まりけり秋の暮れ」の句を読まれ、鳥は何羽いますかとの問いかけがありました。英語が苦手な私は思わず先生の視線をさけてしまい、正面上段の席に座ってしまっただとを後悔しました。しかし、先生

はやさしく、私をさけて質問されホッとしました。芭蕉のこの句を英訳するとき、英語では、単数が複数か「二」か「三以上」かにこだわることを話されました。また、「晴れると思う」「雨だと思う」一語で表現するが、英語はそれぞれ違えて表現する。先生の上手な教え方に皆がうなずき目が輝いている。在校生のときこのような授業を受けられたら自分の語学力がもっともっと上達したのにとひそひそ話す声が聞こえてきた。それから、「最初に結論を言う英語」「結論を保留する日本語」について話され、このことを生徒に理解させるのにいろいろ工夫されたエピソードを話された。そして、日本人と英語国民の発想の違いを考えるに当たり、現代こそ日本の発想が見直される時代だと結ばれました。先生にお礼の拍手をしながら周りを見ると皆満足した表情で拍手しているのが見えました。

特別授業第二限目は、清水郁夫先生の「日本史」、先生は、昭和五十二年から十四年間を社会科教師として、平成五年からの三年間を学校長として小松高等学校に勤務されました。演題は「日本史のなかの小松」で、まず初めに加賀國独立の背景と加賀国府所在地について話されました。平安時代

前期、国内最後の立国として加賀國は、弘仁十四年（八三三年）越前國から分かれて独立しました。國府のおかれた地は小松市古府町といわれているが遺跡は確認されていません。昭和二十九年、国分寺推定地である「十九堂山」において、國府地区で最初の発掘調査が行われ、私も近くに住んでいるので発掘現場へ何回も足を運んだことを思い出しました。清水先生の語られる日本史は、大変わかりやすく生徒全員がいつしか平安の世界に引き込まれました。次に、中央政界を揺るがした湧泉寺事件についてです。安元二年（一一七六年）夏、加賀の国司近藤師高は弟師経を目代（代官）として加賀へ赴任させた。師経の家来たちが白山中宮八院の一つである湧泉寺



講義中の矢原珠美子氏



講義中の清水郁夫氏

(遊泉寺)の境内に入り無礼をはたらき、そのうえ湧泉寺を焼打ちにしました。白山三社八院大衆(衆徒・堂衆・神人)二千余人が蜂起、国府を襲撃、師経が都へ逃亡したため、安元三年(一一七七年)白山佐羅宮の御輿を奉じて大衆千余人が京都に向かい、延暦寺・白山宮の衆徒数千人と一緒にたつて師高を流刑にすることを後白河院政に強訴するという世に言う安元事件がおきました。こうして中央政界を揺るがす空前の壮挙を加賀の国の白山衆徒が敢行したのです。熱く語られる清水先生の「日本史のなかの小松」に生徒一同は大きな拍手で感謝の意を表しました。後日、私は、小松市立博物館で開催されていた秋季特別展「小松城か

ら芦城公園へ」と「加賀国府」展を見ることになったが、清水先生のお話が大変参考になったことは言うまでもありません。特別授業の後、石江事務長から、現在行われている大規模改築工事の概要を聞き、記念館及び新校舎を見学し、「青雲の小径」を通じて天守台下の特設会場へ移動することになりました。記念館では、第三回小松高校創立記念特別展「人間国宝 吉田美統展」が開催されており、高校三回生の吉田氏の釉裏金彩のすばらしい九谷焼作品を見ることができました。そして、平成十三年十一月に完成した第一期工事の講堂・特別教室棟と平成十六年一月に完成した管理教室棟を同級生と一緒に見て回りました。私達が入学した昭和三十五年はまだ木造校舎で、現在の記念館が校舎正面にありました。そして、昭和三十六年十二月に防音校舎改築工事が着工され、昭和三十八年二月に竣工式が行われましたが、私達だけは少し早めに新校舎に移り、すぐ卒業式を迎えました。その防音校舎(教室棟)が現在第三期工事を行うため解体撤去工事中で、奇しくも十五回生にとっては、懐かしい木造校舎と防音校舎、それに、真新しい新校舎の三つの校舎に同時に巡り会うこととなりました。新校舎のすば

らしさに感動するとともに、在校時の木造校舎での思い出がよみえり、本館から講堂への暗いトンネルの廊下を行き来したことがありませんでした。天守台下では同窓会役員・教職員・在校生のお世話で懇親会用の特設会場が用意されていました。吉田同窓会長の挨拶、栖川校長の挨拶に続いてプラスバンド部の生徒により「祝典序曲」が演奏され、百周年記念事業が昨日のこのように思われました。そして鏡割りの後天守台下での懇親会が開始されました。参加された中学、県女市女、高校の方々が一同に会し本校での思い出話にしばしば時のたつのも忘れてしまいました。上副会長の進行で楽しい一時を過ごし、いよいよ校歌斉唱。参加者全員天にも届く大きな声で校歌を歌い、万歳三唱で閉会となりました。懇親会の後、参加者は天守台に登り往時をしのび、私達は、天守台をバックに記念撮影をしました。「青雲の小径」の帰り道、部活動をしてきた生徒の元気な挨拶が私達の気持ちを大変すがすがしいものにしてくれました。今回のホームスクールカミングデイのお世話をしていただいた多くの方々に心から感謝しお礼を申し上げます。(高校15回)

随想

宮崎 恵都子

平成十六年もあと二十日あまりになりました。子供の頃は早くこいこいお正月と歌いましたのに年齢と共に一年が坂をころげ落ちる様に早く感じられます。思えば、昭和十六年に大日本帝国が大東亜戦争に突入し、敗戦国になり、貨幣価値が変わり、教育が変わり、それでもみんなそれぞれ必死で頑張り、すばらしい昭和時代をつくり上げました。平成になりバブル崩壊後は犯罪国になり、異常気象で今年はおちこちで台風が荒れ狂い、死者や被害が出て、平成十六年もまた大変な年でした。国を愛し、すべてを愛し、みんなとおしんで、感謝して、平成十七年からすばらしい日本国になります様に祈ります。(県女31回)

● 第5回
ホームスクール
カミングデイの予告
2005年
9月25日(日)
16回卒業生・36回孕初老の方たちが中心で
32回孕の方がお世話係です。

東海小松同窓会

開催さる !!

東海小松同窓会会長

郷戸 康正

去る十一月二十一日(日曜日)に第六回東海小松同窓会が開催されました。本部をはじめ各支部のご出席を賜り、又小松高校校長さんをはじめ三名の来賓の方々を招いての総会でした。今回本部より取り寄せた名簿によりますと東海三県には約三百八十名の同窓生が在住して居る由のこと、今回は何をコンセプトにして開催したら良いものかと思案いたしました。参加人数は大凡七十名位を推定し、アットホームな同窓会の中にも何か印象に残る雰囲気を作れないものかと試案し、東



の間でも、故郷への思い、それに加えて母校在籍当時の思いを巡らせていただければと思いつつ企画してみました。

具体的には地元の商品五品目を取寄せ(味覚にて感覚を得る)、ゲームを絡めた忘れ去りし北陸弁のインタビュー(言葉は文化)、母校在籍当時を思い、嬉し恥かしフォーグダンス(手にて触合う感触)、等を盛り込み、多少でも雰囲気が高揚しないものかと思いつつ盛り込んでみました。その中でもゲームに当たった人は小松弁で一言語るコーナーの中で、私等はほとんど忘れてしまった方言を、非常にうまく話せる方が見えた折には会場内に郷里の匂いが漂い、この雰囲気は今求め続けていた同窓会だと思えました。

最近若い世代の参加希望者が少なく、同窓会そのものの有り方が問われて居ますが、本来この様な場は各回期の卒業生が集い交流を高めて行くのに良い機会と思っておりますが、今の現役世代の人達は組織に身を置き、マニュアル社会で生きている故に、余り人と人の触れ合いが、大事なことと捉えていない様に思われます。むしろ煩わしささえ感じている人も居るので



はないでしょうか? 非常に寂しい限りです。

世の中では「心のゆとり」が声高々叫ばれていますが、現実の社会では、逆の減少を起している方向に進んでいる様にも思えます。ただこの様な時世でも今回同級生の中で、この会を盛り上げるため、わざわざ遠路より御越しいただいた、方々も居られ、この場を借りて感謝申し上げます。このことは私にとりまして大変嬉しい事柄の一つとなり、いつまでも心に残ることでしょう。

今後何とか工夫をし、若い人達に多数参加していただける様努力したいと思っておりますので御協力のほどお願い申し上げます。

(高校14回)

第8回 関西小松同窓会総会 が開催されます。

日時

平成十七年三月十二日(土)

受付開始

十三時

開場

十三時三十分

総会

十四時

懇親会

十四時三十分

場所 大阪全日空ホテル

3階「万葉の間」

大阪市北区堂島浜

一三三ー一

TEL

〇六六三四七一一二二

会費 一〇、〇〇〇円

(三年間分の同窓会費二〇〇〇円含む)

● 十三時三十分より

「最近の小松の風景」ビデオ放映

● 懇親会ではフランス料理buffetに寿司、そば

● 懐かしい郷土の味「あんころ餅」

● 小松の地酒「神泉 大吟醸」

も用意

● ビンゴゲーム

● 校歌斉唱

● 校歌斉唱

お問い合わせは

TEL・FAX

〇七七五八六〇五〇五

総務 松島まで

小松高校第六回生

卒業五十周年記念

同窓会の開催

安明 和子

私達が小松高校を卒業したのが昭和二十九年。以来五十年の歳月が流れた。平成十六年十一月十六日、古稀を目前に、私達六回生の卒業五十周年記念同窓会が開催され、あわせて卒業五十周年記念誌「天守台の彩」が発行された。

記念誌は、同窓の谷村修次さんの題字、斎官重之さんの水墨画が表紙を飾り、校歌、恩師と同窓生の名簿のほか、天守台や懐かしい旧校舍、三年ホーム写真が掲載され、さらに同窓生から寄稿された思い出、体験、現在の心境、近況などを綴った短文集が盛り込まれ感銘深い編集となっている。

短信には、小松高校や友、ふるさとなどへの思いのこもった感慨が溢れている。その一つ、井上博さんは次のように書いている。

郷里を離れふるさとを思う時、高校で過した友との思い出であっ

た。現在心を許し話し合えるのも共に過した友のようだ。大人への出発点であったと同時に、心の友との出会いの時代でもあったようだ。平成になって帰り住むようになり、ふるさととは、遠くで思うものではなく、住んで良さを味合うものなのだ。

同窓会はず、小松芸術劇場に於て、同窓の新田雅章さん(美川徳聖寺住職・福井県立大学名誉教授)の「今の時代を考えるー東西文化のちがいがらみえてくること。」と題する講話を頂いた。

講話の要旨は次のようでした。個と個の対立の激化という今日の問題状況の要因は西洋の意識にある。この意識は切断の力が働き、対象の個別的把握が重視され、結果として強い自我の出現となる。この状況を打開する方途を仏教思想に求める。愚者の自覚に徹した親鸞の思想、さらに相互に関係しあつて存在することこそ、存在するものの真の姿と教える華嚴宗の縁起の思想が紹介され、関係性に注目してこそ世界の諸現象のトータルな把握が可能となるのでは

なかるうか、との見方が示された。高度な内容であったが、示唆に富み皆興味深く拝聴した。

講話の後、希望者は小松高校を訪ね、記念館を見学し、私達の心のあるさと天守台に立寄り、記念撮影をして懐かしくタイムマシーンに戻したことであった。

懇親会は山中温泉よしのや依緑園で行われた。遠路関西・関東からも馳せ参じ、百三名というかつてない多数の出席で、中には初めての出席の方もみえ、節目にあたる記念同窓会に寄せる同窓生の熱い思いを感じた。

午後六時、記念撮影の後開宴、記念同窓会の代表幹事として尽力された、本校元校長清水郁夫さんから、「卒業して早や五十年、社会状況や地域の風景も大きく変容した。仲間のうち三十八名が他界されている。だが、私どもの青春時代の象徴天守台は永い風雪に堪えて今も健在。世情がどう変われ、三年間の高校生活がそれぞれに人生にかけがえのない大きな糧となっていることを思う時、母校への追憶の念、ともに学び交流

の中で培われた友情の絆は決して薄れることはない。本日は青春の魂を甦らせる会となるよう願っている。」と挨拶があった。

物故者への黙禱後、乾杯、唱歌「故郷」を唱い、山中節も披露された。懐かしい友との再会を喜び杯をかわし、積る話は尽きず懐旧談に花が咲いた。最後は全員起立して校歌を斉唱し、三時間に及び大盛況で賑った会を閉じた。

尚、出席者から募った新潟県中越地震災害義援金九万五千円余は、北國新聞小松支社に寄託された。

最後に、心に深く刻まれた記念同窓会の企画、記念誌の編集など幹事の皆様のご苦労に篤く敬意を表します。近い日の再会を楽しみにしています。(高校6回)

天守台の彩



小松高等学校同窓会
卒業50周年記念誌

マイカントリーロード

森松 和風

昭和二十年代後半。小松高校のグラウンド。幼児にはジャングルと映るほど鬱蒼としていた。あらゆる昆虫、兎やキジ、そして蛇に野犬もそこに居た。その森をブルドーザが拓いた。放置されたブルに乗って遊ぶと、エンジンと油と土の臭いが心地よかった。森を追われた野犬のボスは、野犬狩りの針金状の首輪に捕まり、何度も哀れな声で哭いた。子供らは野犬狩りのことを犬殺しと呼んで恐れた。

兄に連れられて天守台へよく行った。野球部の練習を見るためだった。専栄商業の金田が、縮習試合に来た。暴投ばかりだったけど、球は恐ろしく速かった。あの金田正一投手が投げたのだと、後で知った。陽春、けやきの木の上で昼寝をし、大寒には、宙返りをしながら高く積もった雪の上に飛び降りた。早春、周辺の田んぼで筏遊びをし、初秋には群れ飛ぶ銀やんまを迫った。

桜吹雪の舞う青雲の小径を歩く二人。十七歳と十六歳の学生服カッブルだった。天守台の西側に座り、烏が夕焼け空に消えるまで、時の経つのを忘れて夢を語り合った。彼女がフォークダンスを踊ることは無論、彼女の側に男子が居ること

すら許せなかった。熱烈な恋が続いた。

二十一歳と二十歳。天守台で最後のデートをした。その日、二十歳になったばかりの彼女は、白のストッキングを履いてきていた。色っぽいから白のストッキングが好きと、手紙に書いたことがあった。派手でない彼女の精一杯の挑戦であった。いじらしいと感謝しつつも、私の目は官能的に彼女を眺めた。四年前と同じ場所に座り、話すこともないまま、彼女を掻き抱いた。肉体的なことに走ろうとする自分ごとでも嫌だった。天守台からの帰り途、二人の愛を誓い、幸せを祈った神社の前で、別れを切り出した。彼女は家まで走って帰り、自室に籠もって泣いた。

それを聞いた母は、可哀相なことをすると涙を流し、「あんなにいい娘は、めったにいないのにと、私をなじった。
(高校19回)

ニックネーム

城田 賢一

今頃小松高校ではどんなニックネームで、先生方をおよびしているのでしょうか。

七十年前の昔、先輩から申し送りの、ニックネームの一部を紹介しよう。入校して一番先に覚えたのは先生方のニックネームであった。

タイニー

担任の戸山先生
体も肝っ玉も小さく小心

ポッチャン

国語の勝山先生
口癖のようにポッチャンがを繰返す

ガナ

国語の畠山先生
大聲でがなる

又キ

化学の広谷先生
顔つきが狸に似ている。

ハチ

テニス部の部長
教頭の高橋先生
タカハシのハシをハチと発音

エイサ

数学の井上先生
御名前が栄作でエイサ

バネ

英語の赤羽先生
アカバネのバネ
農業の伊勢先生
お名前が修三でシユウマ

シユウマ

アブラゲ

歴史の大井先生
ニキビの跡が脂で光り油揚げそっくり

ジュウアン

柔道の河村先生
接骨や按摩が得意
なので柔道の按摩

ヒゲ

配属将校の林少佐
カイゼル髭が立派な騎兵少佐

バンのテク

配属将校の坂野(バン)少佐、歩兵科でテクテク歩く

サンマ

教練教官の松本中尉、お名前が松本三次

孔子様

漢文の篠塚先生
子曰(ノタマ)くと論語の講義が名調子

ホエン

英語の大久保先生
Whenをアメリカ式にホエンと発音

以上思いつくまま書いたのですが、姓とニックネームが一致しないのやら、お顔を思い出せない先生もあるので、それ等は省いた。ついで申し添えておきたいのは、前記のニックネームは、そのまま「ホエン」とか「サンマ」とだけ呼ぶのではなく、その前に正規のお名前を付けて、大久保のホエンとか、松本のサンマという風と呼んだことです。それから校長先生にはニックネームは無かった。

昨年平成十四年のクラス会でお決りの校歌や応援歌で盛り上げた処で、誰とはなしに次の歌の合唱になった。

♪学校焼け焼け、金鷄勲章ぶっこわせ
校長ア コレラで死んでしまへ

校長ア死んだとて誰ア泣くものか

山で鳥が啼くばかり、山の鳥も只啼きやせぬよ
♪鼻のダンゴが欲しからさ……
ここ迄歌った処で、その昔の優等生S君が突然「わしやそんな歌知らんぞ」「わしやそんな歌習はなんだぞ」とクレーム、見廻して見るとやはり中には準優等生も居るが、概ね小生並が歌っている。ところでこの歌も先生方のニックネームを詠んだものであるが、今も優等生はニックネームは使わないのだろうか。
級友のニックネームも、懐かしい限りだ。万年級長のK君は「マジ」真面目で勉強が出来、運動が万能、美声で歌は歌手並。剣道の上手なA君は「ツウ」泰然自若、物おじせず親父の如く冷静。
一年か二年遅れて卒業したN君は「S」、英語の「This is」を「エスエス」と発音し「ジスイズ」となかなか言えなかった。
級友の大方が鬼籍に入り、今年のクラス会は八人との旨、幹事のM君から通知があった。M君のMはニックネームでもあり彼の姓の頭文字のMでもある。クラスで一番先に、ニックネームが決ったのはこの名幹事M君である。(中学34回卒)

2004年度 クラブ活動 大会上位成績

- 野球部 春季北信越大会 ベスト4
県1年生大会 ベスト8
- 陸上部 県総体で男子総合優勝
県総体 男子200m 1位 石田 健
800m 2位 中西栄樹
400mリレー 1位
1,600mリレー 1位
総合1位
トラック1位
女子 円盤投 3位 佐々木美里
アジアジュニア陸上(マレーシア) 5位 鈴木雄介
男子一万メートル競歩
世界ジュニア陸上(イタリア) 17位 鈴木雄介
男子一万メートル競歩
石川県選手権 男子100m 2位 石田 健
男子5,000m競歩 1位 鈴木雄介
1位 亀田剛志
男子200m 2位 杉元裕貴
800m 1位 中西栄樹
まごころ国体(埼玉) 優勝 鈴木雄介
男子5,000m競歩 県新記録樹立 杉元裕貴
男子400m
全国高校駅伝石川大会 男子 6位
女子 11位
- バレーボール 男子 加賀地区選手権 2位
男子 高校新人大会 3位
女子 加賀地区選手権 3位
- 水泳 石川県高校総体 高飛込 4位 宮下垂衣
飛板飛込 2位
全国高校総体 高飛込 16位
飛板飛込 21位
- 弓道 国体県予選 総合3位 林瑤子
北信越国体 総合4位 林瑤子
加賀地区高校大会 団体女子 優勝
- 剣道 加賀地区剣道大会 男子個人 ベスト8 佐竹俊樹
- 卓球 県総体男子団体ベスト8
- バドミントン 県高校新人大会 団体女子ベスト8
- 空手道同好会 県総体 個人男子組手 準優勝 子坂英史
県高校新人大会 個人組手 優勝 子坂英史
- ハンドボール 県高校新人大会 男子2位
女子ベスト8
- 男子テニス 団体準決勝敗退
県総体 北信越代表決定戦勝
加賀地区高校新人大会
ダブルス 2位(窪田・堀口組)
団体 2位
シングルス 3位 嘉野敦史
ダブルス 2位 石原・前吉組
- ポートは独壇場！ 男子 団体優勝(インターハイ)
県総体 シングルスカル 1位 荻畑裕紀
ダブルスカル 1位
クォドルブル 1位
女子 団体準優勝
シングルスカル 1位 吉田紗香
ダブルスカル 2位
クォドルブル 2位
- カヌー 県総体 男子 k-2 2位 山田哲郎・池田和樹
c-1 1位 坂本拓海
女子 k-2 3位 寺田彩・古谷寿江
北信越国体 少年男子 k-2 2位 山田哲郎
少年女子 k-4 1位 古谷寿江
寺田彩
(この3名国体出場)
16年度日本選手権 女子 k-4 3位 古谷・寺田
- 文化部
- 放送部 全国高校放送コンテスト県大会
アナウンス部門 優秀賞 東出美里
朗読部門 優秀賞 濱口 恵
番組製作部門 優秀賞 東出、濱口
北村一世
- 吹奏楽 石川県吹奏楽コンクール(県代表) 金賞
全日本吹奏楽コンクール北陸大会 銀賞
- 新聞 県高校新聞コンクール 優良賞
- かるた 県高校かるた選手権大会 有段者の部 優勝 織部智子

小松高校創立105周年記念講演会 ノーベル物理学賞受賞小柴昌俊先生を迎えて



2004年10月22日、小松市公会堂において、ノーベル物理学賞を受賞された世界的科学者小柴昌俊先生をお迎えして、小松高校創立記念講演会が行われ

ものです。先生は「ニュートリノ天体物理学の誕生」という題目で講演され、ご自身の専門・研究分野を高校生にもわかるよう丁寧にお話くだしました。

題目にもあるニュートリノや素粒子、カミオカンデでの研究についての説明など、少々難しい内容と思われるお話でしたが、講演終了後、時間におさまりきらないくらいの質問が出、その後も先生の控え室まで質問に向向くなど、生徒は非常に関心をもちたようでした。

ました。本校は県のスーパーハイスクールサイエンス部門の指定を受けており、今回の講演は、生徒に科学に対する関心を持たせようという試みのもとに開かれた

世界でご活躍になる先生のお話を聞くことができ、生徒にとってもとても有意義な時間であったと思います。ありがとうございました。

新校舎完成記念事業

募金委員長に

長沼副会長

一〇〇六年三月、小松高校新校舎完成に合わせ、施設充実のための募金活動が始まりますが、その募金委員会の委員長に長沼弘喜小松同窓会副会長(高校12回)が常任理事会で選出された。因みに委員は各期の常任理事が就くことになった。

一この記念事業は本来なら百十年で実施すべき事業を新校舎完成に合わせ前倒して行うもので、その記念事業内容は、トレーニング場の建設、図書館蔵書の充実、美術展示棚の設置、机・椅子等備品の充実などが主だった事業で、完成祝賀会は二〇〇六年の夏ごろに予定されている。

これらの財源に充てるための募金活動は今年の六月頃から始める事になり、募金目標額は昨夏の同窓会総会で決定されたとおり五十万を目標とします。長沼委員長も「こんな時節にご負担をお願いするのは誠に恐縮ですが、母校のためにも同窓生各位の絶大なるご協力をお願い致します。」と就任の挨拶をされています。どうか皆さん、これから常任委員の方々がお願いに参ると思しますので、どうぞよろしくお願致します。

編集室だより

◇新年あけましておめでとうですね。本年も会員の声や同窓会活動の紹介、学校の現状など楽しい誌面を作りたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願致します。

○本誌(天守台)を送付ご希望の方は、郵送料として一〇〇〇円を同窓会事務局までお送り下さい。五年間(十回分)お送りさせていただきます。

第30号の原稿募集

- ◎メット 平成17年6月10日
- ◎内容 自由(在学中の思い出、同期の催し、近況報告など)
- ◎送先 〒923-8646 小松市丸内町二の丸15 小松同窓会事務局宛
- ◎発行 平成17年7月

「天守台」編集委員会

- 委員長 宮西 勉夫(高校9回)
- 委員 安田 進一郎(中学45回)
- 委員 浜野 光代(県女35回)
- 委員 野田 洋子(高校12回)
- 委員 杉永 信幸(高校18回)
- 委員 池田 幸夫(高校32回)
- 委員 山口 和博(高校34回)

同窓会事務局

- 学校職員 村井 恭子(高校34回)
- 学校職員 酒井 隆志(高校32回)
- 米崎 雅代